

日食は祭りだ！ ― アンティグア島日食観測記

長野県屋代高校天文班OB会 上原 敏明

★ アンティグア島というところ

昨年夏に、手配旅行のため旅行費用が安いという理由でアンティグア島行きを決めた。しかし、その時点では、アンティグア島とはいかなるところなのか、あまり知識がなかった。取りあえず調べてみた。 場所：小アンティル諸島のリーワード諸島にある。

” The heart of the Caribbean ” と呼ばれている。

イギリス連邦に属するのアンティグア・バーブーダ領である。

面積：約281 km²

アンティグア・バーブーダについては以下の通りである。

独立：1981年	首都：セント・ジョンズ	面積：442 km ²
公用語：イギリス語	人口：6万4400人（1996年）	

17世紀にイギリスの植民地になって以来、最近までずっとイギリス領であった。したがって、イギリス語が公用語であり、車は左側通行である。イギリス、アメリカ合衆国、カナダなどからの日食ツアーがたくさんやって来そうな島のようなのだ。

★ アンティグア島へ

2月に入って、参加人員が確定した。結局総勢13名となった。90年にシベリアの果てまで日食を見に出かけた猛者が5名もおり、ひょっとしたら、今回の日食では最強の観測隊とも思われるメンバーであった。

2月23日（月）の夕方に成田を出発、シアトル→マイアミ（ここで1泊）→サンファンで飛行機を乗り換え、翌24日の午後にアンティグア島に着いた。日射しは強かったが、風は涼しく感じられた。

日食前日の25日、宿泊ホテル（クラブ・アンティグア）敷地内で観測の適地を探した。ホテル側も滅多にない皆既日食なので、手入れの行き届いた芝生のクリケットフィールドを提供してくれた。皆既食24時間前の観測リハーサルの際の天候は、雲量10のベタ曇りであった。その夜も夕食後はカラッ晴れの快晴になっていた。天気が急変する島なのか、夜は晴れやすいのか、良くはわからないが、2夜続けて南十字を拝んだ。ωケンタウリもよく見えた。

★ 日食直前に打った大バクチ

日食当日の26日早朝、雲はちらほらくらいだったが、朝食後にはベタ曇りとなり雨まで降ってきた。「日食に雨は付き物」と言われるが、太陽が欠け始めるまでにあと4時間しかない。今回は敗北かということが頭をよぎったが、ここから日食観測経験者集団の底力が発揮された。南

の方は雲が薄いように見えるではないか。「ひょっとしたら向こうはここよりも好天である可能性がありそう。」ということで、島の南に移動することとなった。日食直前の移動で成功した例はあまり聞かないし、この小さな島で10数km移動したところで、どれほど気象が変わるものか？しかし、このままこの場にいても晴れそうにもない。日食直前の大バクチに参加した10名は、急遽チャーターしたワゴン車のタクシーに乗り込んだ。第1接触まであと約1時間である。目指すは、このアンティグア島での風光明媚な名勝・シャーリーハイツ (Shirley Hights)。島の南に行けば行くほど、皆既継続時間は伸びるので、ここには多くの観測者が集まる場所である。車はホテルを出発した。

ホテルを出る時に陽光が差してきた。ホテルにいた方が良かったか？と考えさせる余裕も与えず、運転手のビルさん (Mr. Bill Francis) は車を飛ばした。数分も走ったら道路は乾いている。雨が降ったあとすらない。青空が広がっているこのまま行けば大丈夫である。運は我らにあり！！車は観測地に行くか、地獄に行くかの猛スピードでシャーリーハイツへと走った。シャーリーハイツはこの日食の日に限り、人数制限の目的にしてか、入場料を徴収していたようである。途中にはそのための検問もあったが、ビルさんの顔パスで通過した。到着したのは、第1接触の後であった。しかし、気象は多少雲はあるものの日日和の快晴である。南国の強い日射しが照りつけている。早速、観測エリアを決め、写真撮影の準備にかかった。

★ 日食は祭りだ！

この大西洋を望む高台・シャーリーハイツには、世界各国から来た多くの人々が集まっていた。その数は3000人以上はいたであろうか。プエルトリコからのクルージングでここに来たとい

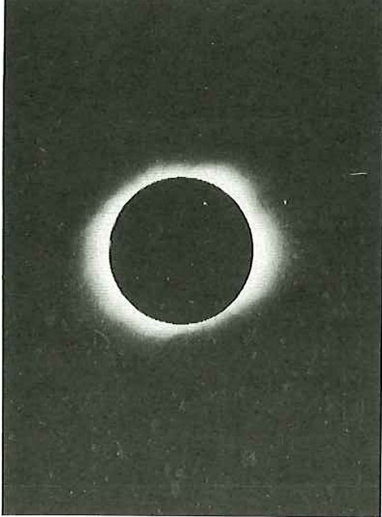


う日食観測者グループがもいたが、島の住民が多かった。日本人は我々のグループだけのようだ。この見晴らしは抜群である。向こうには、フランス領のグアドループ島も見える。あの島との間に、皆既帯の中心線が走っている。ここは雨が降った跡すらない。サボテンが生えているくらいであるから、雨は少ない地域なのであろう。「島の向こうの方では雨が降っている。」と言っ

ても信じてもらえない。「いったいどの国の話だ？」と言われるくらい日射しは強い。もう天気は大丈夫である。

高台から見下ろす大西洋の眺めは絶品である。売店の向こうの広場には、多くの人が集まり、飲めや歌えの大騒ぎをしている。バーベキューの屋台やレゲイミュージックのバンドがいる。観測地ははお祭りの場と化していた。私もアンティグア島産のビールを1本飲んでから、写真撮影

の準備に取りかかった。第2接触まであと20分であった。明らかに暗くなっている。



第2接触直前、太陽の位置に雲が集まっている。これが日食雲か？ そんな中で、第2接触を迎えた。周囲は一瞬静まり返った後、大歓声があがった。いつもなら静粛の中で、シャッター音だけが聞こえるはずなんだが、あの売店の向こうからは、皆既中にもかかわらず、ドドンコドドンコブヴァヴッパパーの音楽が聞こえてきた。「おい、音楽なんてやめて皆既日食を見ろよ。」などと思いながら、コロナの写真撮影をしてからの双眼鏡を使っただけでコロナ見物を堪能する。やっぱり皆既日食は実際に見ないとダメだ。インターネットの動画像中継は見るに値しないものである。

皆既食の継続時間は、島の南に移動したため、30秒近く伸びた。直前の大移動の賜物である。第3接触が終わって空を見上げれば、太陽の位置の雲は消えていた。皆既中の日食高気圧の効果であろうか。まだ、お祭りの音楽は続いている。遠くの島を見れば、噴煙が上がっているではないか。あそこは活火山のあるアンティグア島の隣にあるイギリス領のモンテセラート島である。皆既中に噴火したのだろうか？

もうひとつ、お祭り騒ぎがあった。皆既食直後の日食観測大成功の乾杯をしている時に、どう見ても結婚式としか思えない集団を見かけた。オイオイ、まさか皆既中に結婚式をやっていたんじゃないだろうね。

GPSにより測定した観測地点の位置は西経 $61^{\circ} 45'16''$ 、北緯 $17^{\circ} 00'07''$ であった。

第4接触終了後、直ちにホテルに戻った。こちらは雨は止んではいるものの雲は多かった。地図で調べてみれば、シャーリーハイツまでは直線で16kmである。たったこの距離で、これだけ天気が違うのには驚いた。

日食観測も終わり翌27日はやっとリゾート気分浸れた。夕方には、日食翌日の細い月を探してみた。苦勞すると思ったが、簡単に探せた。月齢は約1.2。さすがに細い月である。月の近くには火星が見えた。

その夜も、快晴であった。4夜続けて南十字を眺める。眺めているうちにもっと南の空が見たくなったが、それは今後の楽しみに取っておこう。

